

巻頭言

八幡市議会議員 上谷耕造



季節の変わり身の早さだけは、驚くばかりだ。
その季節も、温帯地方の4シーズンではなしに、徐々に2シーズンに収斂されようとしているかのようだ。夏か冬か。俳句の季語も春秋ごとに異なる日本人特有の微妙な表現を楽しんできた。たとえば雨。突如の安眠を妨げる「ゲリラ豪雨」「カミナリ付き竜巻」「突風」「集中豪雨」「季節外れの台風」…
パソコンでは、この後空欄でした。でも、冊子には

◎近づく市議4年の折り返し点に向けて何が出来、出来なかったか？
当選直後に体調を急激に悪化させ、普段通りの活動に自信が持てなくなったこと。そんな中で、何ができるのか？そこで考えついたのが、これまでの主張のまとめを小冊子として再提示することだ。

◎「市民が元気なまちに！」VOL.1～VOL.4

——石清水一帯の世界遺産登録運動と

歴史のまちづくり～その象徴としての松花堂角の交差点。

と赤いペンで書き、その上から没にするつもりか黒のボールペンで斜線をひいていました。2012年の8月31日から急にパソコンの前に座りだしたのが不思議でした。お腹に力があると言って、2012年3月以降はほとんど座っていませんでしたから。医者にVOL.3の冊子を渡すと「無理しないように」と言われましたが、10月中旬頃から、どうせ夜かゆくて寝られないからとパソコンの前に座り続けていました。朝も夜も。

しかし、10月23日には「体がだるくてもう座る気がしない」と言い、がまんができないようでした。この期間、冊子を3冊作ろうとしていました。これは2冊目の冊子VOL.4です。巻頭言は「新春の言葉」と決めていたようですが、私の「書ける時に書いたら」の言葉で、上記の様に、10月途中まで書いていたようです。

上谷は12月13日に亡くなりました。

(うえたにじゅんこ記)



地域から…

「市民協働のまちへ！」



「市民が元気なまちに！」

VOL.4

地域誌35周年(1)

「市民協働元年」なるか

八幡市議会議員 上谷耕造

吉井松里町内会発足35周年、おめでとうございます。

市制施行も今年で35周年。この町内会は、市制と歩みをともにしてきました。

今年は、町内会発足以来これまで、昼夜を問わず指導に邁進された前吉川会長さんが勇退され、新しい女性会長・丁村さんとバトンタッチされました。地域社会にとってますます大変な時代になると思いますが、今後のご活躍を期待いたします。

×

×

さて、発足35周年になる町内会組織ですが、このような地域コミュニティ組織の果たす役割は、今後ますます重要性を増すものと思います。3・11 東北大震災以降様々に語られている通りです。少子高齢化や一人暮らし家庭、空き家の増大、防災・防犯など日常生活上の安全や安心への不安など……にいかに対処していくか、課題は多岐にわたっています。

★表紙の写真 ④正月用しめ縄づくりに精を出す参加者(まるごと館前)。⑤八幡まるごと館の野菜生産者・井藤学さんの農園で、一面黄色い可憐な花を咲かせた「花オクラ」。

ところが、地域活動の担い手はというと、高齢化などで十分に対応できにくくなっており、新規担い手の補充もスムーズにいったる訳でもないのに、むしろ低下しつつあるのが現状ではないでしょうか。

そこで、こうした限界を補完し、地域力の再生をはかっていくため

に欠かせないのが、諸々のNPOや市民の手による地域支援の自主的活動グループたちとの連携です。手前味噌となりますが、「八幡まるごと館」も地元野菜の直売や趣味の催し、サロン活動を展開している民間活動グループのひとつで、こうしたたまり場が市内にいくつか必要となるかもしれません(大学のバックアップで運営している事例もあります)。

×

×

それでは、町内会や自治会のような地域コミュニティ組織と民間の自主的活動グループを誰が、どのように結びつけていくのか。民間組織は、地域社会でなかなか認知されにくい面があり、直ちに連携にはつながらない。そこで欠かせないのが行政の役割です(別に市そのものでなくてもかまいませんか)。

新しい市長も市も「市民協働のまちづくり」を市政推進の柱に据えています。大事なことは、単なるお題目ではなく、これに本気で取り組んでもらうことです。

その意味で、今年を「市民協働のまちづくり」元年としなければなりません。



▲地域防災訓練の様相(めじろ公園)

日常的な地域の安全安心問題はもとより、旧四小跡地の利活用、男山地域の再生問題に至るまで…。今年は、やっとの思いで旧東小学校跡地に市民の自主的な活動の場を保证する「市民活動センター」がオープンし、市に設置された庁内組織＝市民協働推進課の取り組みとともに「亀の歩み」ではありますが、ひとまず動き出したことに期待してみたいと思います（2012年）。

地域誌30周年(2)

団塊世代の“地域デビュー”を期待 八幡市議会議員 上谷耕造

私ども吉井松里町内会の発足30周年、おめでとうございます。

市制と歩みをともしてきましたが、町内会組織をここまで大きく立派に育てられた諸先輩方や吉川会長をはじめ、歴代役員、委員の方々のひとかたならぬご尽力に、深く敬意を表するものです。

私は、八幡市に来て、もう30年以上になります。その間、八幡市は男山団地の開発による人口急増で、市制施行へ。その後、7万6千人をピークに人口が鈍化漸減し、バブルが弾け、景気の長期停滞とともに少子高齢化時代を迎えました。

◎吉井松里文化祭に友情出演する八幡第四幼稚園の園児たち（吉井松里公会堂）



その典型が、四小

です。かつては、児童数が1800人を超える府下一のマンモス校だったのが、2010（平成22）年には廃校となり、この地域から子どもたちが一斉に姿を消してしまいます。町内の真ん中にぽっかりと空間が空くこととなります。

いま、どの地域も子どもたちがいなくなり、高齢化が進んで活力が失せ、互いのつながりも希薄になったと言われます。景気の停滞と格差社会の進行がこれに追い打ちをかけて、世はすさび、犯罪や残虐行為もあとを絶ちません。

×

×

大変な時代のなかで迎えた30周年ですが、希望はあります。

いま四小は、学校教育だけでなく、地域のスポーツや防災、安全活動の拠点であり、ふるさと学習のセンターとして使われています。施設のこうした機能を活かし、子どもたちがいなくなったあとも活力を失わず、次世代を見据えた新たな地域づくりの拠点施設となるよう有効な活用法を見いだすことです。

また、この地域は、年間を通じて常に活動が活発で、わけても自主防災や学校

支援ボランティア、地域安全見回り活動などの先駆的な取り組みは、特筆すべきものがあります。そのおもな担い手は、いまのところ、元気なシニア世代です。

今年は、団塊世代の「リスタート元年」ですが、現役を退く元気な団塊選手も、先輩世代に続いてどんどんと“地域デビュー”を果たし、楽しんで活動に参加して欲しいものです。

自分の健康維持のために楽しんでやっていることが、子どもたちや地域の人に喜ばれる。生活に張りができて、充実感がある、と先輩諸氏は喜んでおられます。それが、地域コミュニティづくりに大いに役立っているのですから、一石三鳥です。

そうなれば、希望は果たせるでしょう。団塊最年少の私も、微力ながら、地域の皆さんとともに一所懸命頑張りたいと思います（2007年）。

グリーンクラブ通信(1)

(グリーンクラブ・訪問記)

訪問先 八幡市議会議員 上谷耕造

● 約10年単位で転身～「人生3分節」

グリーンクラブには今年になって、以前お世話になっていた母親と入れ替わる形で、皆さんの仲間入りをさせていただきました。

私たちの家族が初めてこの町内（いま、まだ残っている吉井の家）に引っ越してきたのは、2番目の子どもがちょうど生まれた年で、約30年前になります。この年はまた、私がそれまでお世話になった地元の役所生活を離れて、単身で上京する年でもありました。

そのため、折角、町内の皆さんの仲間入りをさせてもらったのに、父親の私は東京勤務で留守、妻は大阪勤務の傍ら2人の乳幼児を抱えて、毎日の生活に子育てに悪戦苦闘していました。失礼ながら、地域の行事などにかかわる余裕などほとんどなかったように思います。

私の場合は、八幡に来て10年間市役所（おもに財政と広報）でお世話になり、その後は東京の民間団体勤務。ここでも約10年間勤めたのち京都に帰り、1991（H3）年4月に議員に初めて立候補し、運よく当選を果たしました。それ以来、3年間の空白期間を除いてずっと議員生活を続けています（今年で18年目）。空白期間ができたのは、4期目途中（議員13年目=当時議長）に議員を辞職し、市長選挙に挑戦して敗退してしまったからです。この空白期間の3年間は、おもに里山再生事業と労働福祉問題の2つのボランティア活動にかかわりながら、気ままな浪人生活を送ってきました。その後、元の市議に復帰し、今年2期目を迎えています。

私が人生の師とする立命館の故末川博名誉総長は、よく「人生3分節」を唱え

られましたが、その場合のひとつの分節は25年でした。私の場合はそれよりもずっと小刻みに、およそ10年単位で転身を重ねてきたこととなります。

● “地域の茶の間”～おしゃべりサロン

さて、吉井の家から松里に移り「八幡まるごと館」を開いたのは、一昨年6月のことです。

地域の人たちの出合いやつながり、絆が次第に薄れ「無縁社会」化していくなかで、少しでも心の安らぎを取り戻せる「場づくり」ができないかと考え、ささやかながら「八幡まるごと館」を開きました。それは単なる思いつきではなく、私が永年思い描いてきたことです。

まるごと館については以前、当グリーンクラブの会報に「八幡まるごと館は、一体何事館？」というタイトルで紹介させていただいたことがあります。

つい最近の日経新聞（夕刊）でも同様の記事の紹介がありました。

×

×

「国勢調査で単身世帯が初めて3割を突破、家族のありようが大きく変わる中、地域社会の絆が見直されている。絆づくりのきっかけとなるのが、住民が気軽に立ち寄り交流する場の存在だ。『地域の茶の間』などと呼ばれ、自治体なども後押しする。高齢者も、子育て世代も、近所に顔なじみがいれば安心だ…」

こうした施設の目的は、「地域力再生に向けた住民交流の場」であり、「地域の茶の間」「コミュニティ・カフェ」などと呼ばれている。運営主体はNPO法人、任意団体、個人と様々。自治体や社会福祉協議会、大学の援助や協働運営で行わ

れている場合が多い。2009年にはコミュニティ・カフェの全国連絡組織まで発足、本年度には「地域支えあい体制づくり事業」として270億円の政府予算もついた…。



⑤ 盛り沢山な地元野菜でにぎわった秋の野菜市（2011年10月、八幡まるごと館）

×

×

● 安い・新鮮・安全～生産者の顔が見える

記事は、およそこんな内容ですが、事業の必要性はともかく、実際にやる場合難しいのはマネジメントです。

まるごと館の場合、無償ボランティアによる運営を旨としています。運営費は、毎日の100円野菜の売り上げの一部やパンフ類など展示資料、手作り品の販売

や寄付、イベントなどの売り上げに頼っています。

とくに、軒先の100円野菜は、収入面よりも集客面での開館以来の目玉商品で、いまや良きお得意さんが多く利用してくれるようになりました。私たちの事業の趣旨に賛同してくれ、毎日新鮮野菜を供給してくれる地元の農業者（必ずしもプロではない）も、オープン当初はたった1人だったのが、いまや10人を超えるまでになりました。生産者の数が増えると、生産者同士がお互いに価格を始め野菜の量や品数、品質、農薬の散布状況に至るまで相談協議し、より品質向上に努めるようになりました。

こうして、八幡まるごと館の野菜は、常に生産者の顔が見え、安さはもちろん、新鮮さ、安全性は保証つきとなったわけです。いまでは野菜だけでなく、漬物や季節の果物類、ジャム類などの加工品類や色とりどりの花木も並ぶようになり、一段と賑わいを見せています。

館の中は、町ゆく人たちのちょっとした“おしゃべりサロン”となっています。お茶やコーヒーを飲みながら、たわいのないことや世間話に花を咲かせています。また、いろんな催し物もやっています。

野菜の買い物ついでに、館のなかを覗いてください。

まるごと館の今後の催しは、「理科の実験」「かばんづくり」「95歳の元気人の話を聞く会」など多彩です。10月には、3回目の「秋のまるごと市」を少々規模を膨らませて実施する予定です。

催しはもちろんのこと、普段の一眼に立ち寄り、茶飲み話に花を咲かせてみてはいかがでしょうか（2011年）。

グリーンクラブ通信(2)

「ふるさと再生」元年に

八幡市議会議員 上谷 耕造

吉井松里グリーンクラブの皆さん、お元気で新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素は私ども地域のために、吉川会長をはじめ役員の皆様方に大変ご尽力頂いていますことに深く敬意を表します。

旧年中（2011年）は、公私ともに歴史を画する多難な年でした。空前の大災害に加えて、私的にも体調を壊してオロオロするばかりでした。

辰年の新年こそは、一気に“昇り龍”とはいかないまでも、私どもの暮らしぶりも命運も上昇へと転ずる復興・転機の年となるよう祈念したいものです。

さて、私の新年のテーマは、まずは何と言っても自身の“病の克服”です。昨年6月以来、病氣治療とともに好きなアルコールと煙草を断ち、玄米と地元野菜に助けられて年末にはかなり回復してきました。やはり元気な身体でないとも勇気や希望、活力は生まれません。ご心配とご迷惑をおかけしていますが、一日も早く完全復帰できるよう努めたいと思います。



▲吉井松里町内会のウィンターフェスティバル・餅つき大会（公会堂にて）

3・11東日本大震災は、「原発安全神話」を吹き飛ばし、事故による放射能汚染は多くの人たちから住み慣れたふるさとを奪い去りました。

立ち入り禁止状態はいつまで続くのか。これまでの災害では見られなかったことです。復興への道のりは平たんではありません。

うして、このたびの震災は、これまでの社会常識や社会観、死生観や暮らし方、自然と人間との関係、現代文明にかかわる問題などあらゆる領域において見直しを迫るものでした。国王夫妻の訪日で話題を呼んだブータン国が使う「国民幸福度」という物差しが、GNPに代わる国力評価の新指標として注目されていることなどもその一例でしょう。

×

×

そこで新年のもう一つのテーマは、これまでの常識を見直し「3・11」以降の新しい時代に対応した新しいふるさとづくりや地域の再生、生き方や暮らし方、価値観などを模索することであり、自身の身の丈に見合った地域貢献のあり方、「絆」の編み方結び方などを探ることだと考えています。

八幡まるごと館の試みにしても、同じことが言えると思います。年明けの2月早々には八幡市長選挙がありますが、これも含めて、新しい年はいろんな意味で「〇×元年」といわれるような年になりそうです。

あとになりましたが、新しい年がグリーンクラブ会員並びにご家族の皆様方にとって、より一層幸多き年となりますよう心からご祈念申し上げますとともに、同クラブと町内会のますますのご発展を心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします（2012年）。

グリーンクラブ通信(3)

当地の活発な活動が

まち中に広がることを期待して

八幡市議会議員 上谷 耕造

新年明けましておめでとうございます。どなた様も、健やかに新年をお迎えになられたものとお慶び申し上げます。

日頃は、吉川会長以下役員の皆様方の一方ならぬご尽力に深く感謝いたしま

す。本年も十分にご自愛され、引き続きよろしくお願い申し上げます。

さて、私はこのたび、当グリーンクラブの皆さん方の仲間入りをする事になりました。61歳の若輩者ですので、見習い人としてお手柔らかに接していただければありがたいかな、と勝手に思っています。

グリーンクラブと言えば、私の母親がかつての一時期お世話になっていました。ところが数年前から、亡き父親の看病のために田舎に帰ったまま、会費を支払うだけのいわゆる「幽霊会員」といった状態が、ほんの今まで続いていました。皆さんに失礼ばかりしていたわけですが、このたび、その母親と交代する格好で私がお世話頂くことになったというわけです。

これまで何回かグリーンクラブの活動を外から拝見させて頂いてきましたが、活動に参加している先輩たちの澁刺とした楽しそうな姿が印象に残っています。

また活動のどれひとつとっても世間で言う「老人」とは一味違った若さあふれるものばかり、と見受けられます。名称もグリーンクラブという若々しさ…。

にもかかわらず、最初は正直言って、入るのに少々ためらいました。その訳は、いくら名称や活動、活動に参加している方たちが若々しくても、所詮は「老人会」ではないか、ということです。わが身を省みずまだまだ若いと勝手に思い込んでいる、そんな私の背中を押してくれたのが地域の良き先輩達でした。さすがに、これには逆らえず、踏ん切りをつけることになった次第です。いまとなっては、大変ありがたいことだと大いに感謝しているところです。

● “若々しい老人会” で「無縁社会」に挑戦

ところで、地域の老人会報がこの地域のように多彩な内容で定期的に発行されているのをあまり見かけません。実に、素晴らしいことです。この地域には



⑥小千代町の学校統廃合で新たに開校した小学校(写真左開校式)

文化があります。文化の育つところには、人と人の良きつながりがあり、潤いがあり、希望があります。このニュースは、これらを結ぶ血液です。

いま、親子や家族、お隣さん同士や地域社会の絆が希薄になって、様々な犯罪や弊害が生じています。「無縁社会」という新語も生まれているほどです。

当吉井松里町内会とグリーンクラブの活発な活動は、こうした「無縁社会」と無縁にしていくために大いに貢献しているし、当ニュースを通じて地域の隅々まで新鮮な血液を送りこむ努力をされていると思います。こうした活動が、この地域からさらに全市的に広がって、まち全体が「信頼の絆」で結ばれた、より楽しく安全で安心な、希望の持てるまちになればと

大いに期待するものです。

私も皆さんとともに、議員として、また当町内会およびグリーンクラブの一会員として精いっぱい頑張りたいと思います。
本年もよろしくお願いいたします（2011年）。

学校ボランティア誌(1)

地域の“お宝”として育ててほしい

八幡市議会議員 上谷耕造

昨年発行のこのボランティア誌で、私は町内の「子ども見守りボランティア」の皆さんに「新しい学校になっても続けてほしい」と勝手なお願いをさせていただきました。

その後まる1年。皆さん方の並々ならぬご尽力で見事、成就していただきました。素晴らしいことです。皆さん方のこの1年間の取り組みに、深く感謝する次第です。

こうした地域貢献・社会貢献が難なくできるということは、吉川会長以下グリーンクラブの皆さんが常に仲良くし、活動に参加して楽しい環境や雰囲気があることを物語っています。こうしたことは、ボランティア活動をするにあたっての必須要件であり、お互いを認め合い、支えあいながら、決して無理せずに「亀の

歩みで」一歩ずつ取り組みを進めていくことが活動を長続きさせる秘訣だとも思います。

その意味で、グリーンクラブの取り組みは、ボランティア活動の良きお手本であり、貴重な先進事例といえるでしょう。

地域の子どもの安全に対する貢献は申すまでもなく、ボランティアの皆さんが子どもたちから慕われ、自らも元気になれる、地域の皆さんからは評価される——といった一石四鳥の取り組みを今後とも無理なく続けてほしいと思います。

それは、地域の“誇り”であり、“お宝”でもあるからです（2010年）。

学校ボランティア誌(2)

新しい学校になっても続けてほしい

八幡市議会議員 上谷耕造

「こども見守りボランティア」5周年、おめでとうございます。

「石の上にも3年」と言いますが、5年経ちました。素晴らしい熟年パワーに、熱いエールを贈ります。

初めての取り組みほど勇気がいるものではありません。吉川会長をはじめ、グリーンクラブの人たちが「楽しみながら地域貢献出来たら」との軽い思いから、「この指止まれ!」と始めたそうです。市内初の試みでした。

「活動の記録」も、毎年編まれてきました。グリーンクラブの皆さんと「わが孫たち」の心からのラブメッセージ集です。お互いの、ほのぼのとした眼差しが伝わってきます。子どもたちと心から溶け合い“良きお友達”になることによって、防犯や安全問題だけでなく、「メダカの学校」のように「楽しい学校生活」づくりにも貢献しているのではないかと。信じ合える大人たちに地域で見守られながら、希望を持って元気に育つ。今のこどもたちにとって必要なことが、ここでは無理なくやられていると思います。

大人の側は、自ら楽しみながらお世話をすることで、子どもたちから元気もらい、感謝され、慕われる。それが日々の生活を気持ちいいものにし、生きがいになる。このボランティア精神を地で行くような素晴らしい取り組みに、熱いエールを贈ります。地域の誇りでもあります。

ボランティアのベースとなる八幡第四小学校は、平成21年度限りでなくなりますが、この精神は新しく生まれ変わる学校に引き継がれていくことでしょう。

今後も、ますますお元気で活躍され、素晴らしい地域社会づくりに貢献されまよう心からご期待申し上げます（2009年）。



④ウィンターフェスティバル・餅つき大会に集まった大勢の町内会員たち

敬老のつどい(1)

健康第一で生きがいと地域貢献を

八幡市議会議員 上谷 耕造

皆さん、おはようございます。地元吉井松里でお世話になっています市会議員の上谷耕造でございます。

今年は、ことのほか暑い夏でした。異常気象のデパートとっていいほどい



▲布ぞうり作りに励む教室の生徒さんたち

ろんな出来事がありました。台風、ゲリラ豪雨、雷、竜巻、突風…。皆さん方は無事、こうした猛威をふるう難局を乗り越えられ、お元気でここにこ

うしてお集まりされたのは誠に喜ばしい限りです。

ところで、先ほど町内会長さんからご報告がありましたように今年9月、京都府下で熱心かつ優秀な地域活動に貢献されている地域老人クラブにわかグリーンクラブが選ばれ、知事賞を受賞することができました。誠に名誉なこと、これまで永年の活動の蓄積のたまものと深く感謝いたします。

さて、わか国全体の65歳以上の人口は、いわゆる「団塊の世代」の参入で3000万人を超えたそうです。10月1日現在、わか国の総人口は1億2700万人ですから約4人に1人が高齢者ということになります。因みに団塊世代は6

5歳～63歳までで約700万人います。

彼らリタイア組に「これから何がしたいか」と尋ねたところ「家でゆっくりしたい」「旅行や趣味を生かしたい」などというひとは意外と少なかったようです。

■リタイア組は仕事生きがい

どんな答えが多かったかといえば「(これまでのノウハウを生かして)新たに起業したい」「独立して仕事をしたい」などと答えた人で、周囲を驚かせている。

それも共通した理由は、生活のためではなく「生きがい」だということです。団塊世代というと、誕生から墓場まで「競争社会」にもまれ、競争に疲れ切っているはずなのに。ところが、“65歳はまだ青春”と誠に頼もしい限りです、“生きがい”の中に、NPOや地域ボランティアなどによる地域貢献も、ほんの少しだけ付け加えていただければありがたく思っています。

それはともかく、趣味をやるにも起業するにもいずれの場合も健康が第一です。いつまでもお元気でご活躍できますようお祈り申し上げ、本日のお祝いの言葉といたします。

本日は、誠におめでとございました(2012年)。

敬老のつどい(2)

● 吉井松里町内会30周年「敬老のつどい」

祝 辞

八幡市議会議員 上 谷 耕 造

皆さん、おはようございます。吉井に住まいしています市議会議員の上谷耕造でございます。

本日の吉井松里町内会設立30周年「敬老のつどい」が、このように盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。日頃は、吉川会長さん以下、大先輩であられる皆様方に大変お世話になり、深く感謝致しております。

朝夕、ようやくしのぎやすくなりましたが、今年の夏は記録的な猛暑が続きました。皆様も、さぞかし大変だったのではないかと思います。

しかし皆さんは、きょう、こうしてお元気で、おめでたいつどいに参加されました。誠に喜ばしい限りです。お元氣な長寿を心からお祝い申し上げます。

×

×

さて、八幡市は、これまで市全体で開催してきました「敬老のつどい」を、今年から各地域ごとに実施して頂くことになりました。地域の皆様方のご尽力に、心から敬意を表するものです。

高齢社会がどんどん進むなかで、今年9月1日現在、70歳以上の高齢者は市全体で9070名、65歳以上の高齢化率は18.5%、最高齢者は女性が105歳、男性は100歳だそうです。吉井松里地区のきょうのつどいには、70歳

以上のお年寄り91名が参加され、うち喜寿を迎えられた方が9名おられるそうです。

■「年をとらなきゃ死んじゃうじゃないの」

ところで、落語界の大御所であられます故立川談志師匠は、こんな小咄を紹介されています。かなりのご高齢のおばあさんに「年を取るのが怖くないの?」と尋ねたところ、そのおばあさんはこう答えました。「だって、年を取らなきゃ死んでしまうじゃないの」。とにかく、年を重ねると言うことは生きている証拠です。元氣であれば、なおいいわけです。

■「理想を失うと初めて老いる」

また、サムエル・ウルマンという詩人は「青春」という有名な詩の中で、「年を重ねるだけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いる」といい、80になっても、人間は希望を失わない限り青春なのだ、と語っておられます。

本日、ご参加の皆様方は、明治、大正、昭和初期にお生まれになり、激動の時代を逞しく生き抜き、今日の繁栄と平和を築いてこられました。紆余曲折や並々ならぬご苦労があったことと思いますが、皆さん、お元気で、まさに青春そのものではないかと思います。

×

×

最近、少子高齢化などで「地域力が減退している」などによく言われることがあります。それだけに、皆様方に、ますますお元気で長生き願ひ、これまで培ってこられました人生の大先輩としての豊富な智慧や経験、技術、ノウハウなどを

後進の人たちや次世代人にご教示頂き、人づくりや新しいふるさとづくりにご尽力頂ければありがたいと思います。地域やまちの名人、達人として、まだまだご活躍頂きたいと願っています。

後輩の私どもも、皆様方が「長生きして、本当に良かった」と心の底から思えるような安らぎのある地域づくり、次世代に胸を張って引き継げる素晴らしいふるさとづくりのために邁進して参る所存でございます。

最後になりましたが、本日のつどいを準備されました町内会、福祉委員会の各役員の皆さんを始め、お世話頂きました関係者の方々に深く感謝致しますとともに、ご参会の皆様方のますますのご健勝、ご多幸を心からお祈りし、お祝いの言葉と致します。

本日は、誠にありがとうございました。(2007年)

八幡まるごと館

八幡まるごと館は、一体何ごと館？

男山松里12-20 上谷 耕造



昨年(2009年)6月、男山松里12の旧「とんかつラーメン朋」さんの店舗あとに「八幡まるごと館」を開きました。

この6月6日(日)

には、開館1周年を記念して、歌と落語、地元野菜や物販などを盛り込んだ楽しい催しを行います。ぜひ、お越しください。

「八幡まるごと館って、一体何ごと館?」。変てこな、耳慣れない名前です。それは、私が考えている「新しいふるさとづくり・八幡まるごとミュージアムのまちづくり」(注)から由来しています。

■“生きる喜び実感できる場”づくり

ところで、いま少子高齢化が進むなかで、家族同士やお隣近所、世代間などで人の結びつきが薄れ、孤立化が進んで地域の活力も減退していると言われています。ヒトは元来、社会的動物であるはずなのに…。そこで、お隣近所や地域の人たちの出会いやつながり、ちょっとした癒しの場、生きる喜びを実感できる場が持てないかと考えたわけです。行政に頼るだけではなく、微力ながら

も自分たちの手で。

とはいえ、実際にやるとなると、うまくいくのか、人は来るのか。心配だらけ、



手探りの出発でした。

まずは、館内の雰囲気づくりから、と軽いBGMを流します。オープンとともに、自薦他薦の地域の達人た

ちから竹細工や秘蔵の写真、種々の手作り品などが寄せられました。壁には絵画や写真を飾り、ハンディのある人たちの工芸品も陳列販売することになりました。限られた品数ながら、地元野菜や果物、タケノコの販売もできるようになりました。

▲写真は、布井祥子さんの歌のライブと前ページはライブ後の昼食会（いずれも、八幡まるごと館で）

■毎日、まるごと館に「ご出勤！」

通りがかりの人がちょこっと顔を出し、コーヒーやお茶をすすりながら、好き勝手に歓談する。手作りケーキの差し入れがあった時には一段と盛り上がります。布ぞうりや切り絵、味噌づくり、エコクラフト、フラワーアレンジメ

ント、めしませ着物など多彩な教室や子育てグループの集い、歌のライブなどなど。手作り弁当を持ち寄って賑やかにやるグループもあります。男山地域再生研究会と言う硬派の勉強会も開かれています。東高野街道を楽しく歩くガイドブックも作られました。新年のもちつき大会、昨秋と今春の2度のまるごと市、フリーマーケットにも、どこからともなく大勢の人たちが集いました。

■歩いて暮らせるまちへ！

何らかの組織に属している人はともかく、そうでない多くの人々が話し相手を求め、生きがいの場を探しているのでは？ —そんな気がします。教室で作ったおそろいの布バッグを肩から提げて、元気にまるごと館へ「ご出勤！」。確かに開館当初に比べて、館に出入りする人たちはみな明るくなったし、若返ったように感じるのは気のせいでしょうか。もしこれが事実なら、それだけで開館した甲斐があったと得心しています。

最近、よその街にクルマで行くと、行く先々で「道の駅」というオアシスに出くわします。一方、高齢化が進むこれからの男山の地域は、日常生活の様々な利便施設が歩いて利用できる距離にある「歩いて暮らせるまち」が望ましいと思っています。その意味で、八幡まるごと館は、男山地域住人がいつでも普段着で立ち寄れる心のオアシス=「心の駅」としてご活用いただければありがたいと思います。

皆さん、ぜひ一度、足を運んで下さい。火曜日以外はいつでも開けています。

（注）「八幡まるごとミュージアム」については、解説したパンフが八幡まるごと館にあります。また、上谷耕造のホームページ・八幡まるごとミュージ

アム <http://www.uetanikozou.com> にも掲載しています。ご利用ください(2010年)。

<参考資料>

2012(H24)年度第2回定例会代表質問(補足)

<施政方針>に則して

(1) (はじめに) で述べられている「市民協働のまちづくり」について

「市民協働」というテーマは、第4次八幡市総合計画を推進していくうえで、市政運営全般を貫くベースとなる考え方であり、推進手法とされています。このことは、すでに4市総に明記されているし、このたびの堀口市長の選挙公約で掲げられた最重要テーマであり、したがってこのたびの市政運営方針のなかでも述べられている通りです。

そこで、施政方針の個別テーマに関する質問に入る前に、まずは「市民協働」という市政推進全般に通底する基本となるテーマについて、市長の基本的な考えをお聞かせ願いたいと思います。

- ① 【質問】市長が思い描く本市の「市民協働のまちづくり」とは、一体どのようなものか。そのイメージするところ、その概要を教えてください。

(※巻末図参照)

■市民協働の指針づくり」急げ

② このたびの議会に、懸案であった市民協働の重要な担い手のひとつとなる市民活動の拠点施設「市民協働活動センター」条例が提案され、施設の運営費が予算計上されました。ようやく開設の運びとなり、まずは喜びたいと思います。同時に、このたびの拠点施設づくりは、今後考えられる壮大な「市民協働のまちづくり」の第一歩を記すことになるにすぎないということです

③ そこで、さしあたって必要なことは、市民協働に向けて行政と市民が同一目的に向かって共同歩調を進めていくことが不可欠となりますが、その際、お互いが納得できる情報やルールなどの共通認識を共有することや信頼関係が大事となります。市は、そのための基本的な指針作りを急ぐ必要があります。

④ 【質問】市民協働を進めるための前提となる「市の基本指針」づくりが喫緊の課題だと考えますが、その必要性と取り組みの見通しについて教えてください。

⑤ 【質問】また、併せて現在進めているコミュニティづくりについても、市の基本的な考えを明記しておくことが大事だと考えますが、その構想や基本計画づくりの考えがあるかどうか教えてください。

こうした作業を市が進めていくうえで大事なものは、申すまでもなく庁内体制の整備充実です。今後、本格的な「市民協働のまちづくり」を進めていくために、果たして今の庁内体制で十分か。現行では、市民協働推進課のなかの市民協働推進係の実質**人の職員が担当して

いるにすぎない。これでは限界があると思うし、今後、早急に市民協働推進型の行政システムに大幅に転換させていくことが求められています。

そこで……。

■市民協働型市政への転換

⑥ 【質問】市民協働を進めていくうえで、いまの庁内体制についてどのように考えるか、教えてください。

⑦ 【質問】また、今後、本市にとって「市民協働推進型の行政システム」への転換が急がれると思いますが、市はどのように考えているか教えてください。

※現行では、市民協働推進課のなかに市民協働推進係と広聴係があり、前者は市民協働、コミュニティ、自治振興、市民憲章、友好交流を担当している。

「市民活動協働センター」の開設あたって、市は市民の自主・自立（自律）的な活動を可能な限り保証することが必要なことは申すまでもありません。

センターの開設は、とりあえず活動拠点の保証にあたります。その使い方などの詳細については別に検討する必要があるとして、市民活動を促進していくためには、市は活動拠点の保証のほかヒト、モノ、カネ、こと、情報などの援助やサポートが大事となります。いずれのテーマも重要ですが、わけても初期の立ち上げの時期には資金援助がとくに大事だと思います。

そこで……。

⑧ 【質問】今後、市民活動、市民協働事業に対して新たな資金援助の考えがあるかどうかお聞かせください。

※たとえば、市民の自主事業について援助すること。また、市の事業を民間団体（市民団体）が企画・提案・実施するのを援助する、など。

■「人づくり、まちづくりファンド(基金)」の創設を

※資金援助の原資として、たとえば、今回補正予算に計上された「市民協働防災基金」と同様に、「人づくり まちづくりファンド」を設けてはどうか。

※その際、既存の一律助成制度をゼロベースで見直し、必要な財源を捻出する。

⑨ 【質問】今後、市民活動や市民協働の担い手となる「まちづくりリーダー」の育成が求められると思いますが、この点について市の考えをお聞かせください。

※「まちづくり」に特化したリーダーの育成機関を市の責任で設置。たとえば、既存の大学や研究機関、まちづくりの専門機関などの協力を得て、本格的な「市民協働大学」を開校してはどうか。（よくある「高齢者大学」「市民大学」などの教養文化の向上を目的としたものとは性格が異なる）

●上谷耕造(うえたに・こうぞう)のプロフィール

- *1949年 香川県小豆島生まれ
- *1972年 立命館大学法学部卒業
- *1972年 八幡市役所勤務(財政、広報を担当)
- *1982年 秘書広報課長補佐で退職。上京し、出版編集関係の仕事に従事。
- *1991年 労災福祉センター(京都市内)を立ち上げ、ボランティア活動に従事。地元でPTA活動にも参画。
- *1991年 八幡市議会議員に初当選(無所属・市民派)。以降、連続4回当選。副議長、議長を歴任。
- *2004年 八幡市長選挙に出馬、落選。「浪人時代」はNPOあったかサポート(京都市内)立ち上げに参画。地元では八幡たけくらぶに参加、里山再生・森林保全活動に従事。日本エコミュージアム研究会会員。
- *2007年 八幡市議会議員に復帰(5期目)。
- *2008年 「市民が元気なまちに！」VOL.1 発行
- *2009年 地域サロン「八幡まるごと館」オープン。
- *2010年 「市民が元気なまちに！」VOL.2 発行。「古からの贈り物—東高野街道 歴史ロマン」発行
- *2011年 八幡市議復帰第2期選挙当選(6期目=市議会・無所属市民派「八幡みどりの市民」に所属)
- *2012年 「市民が元気なまちに！」VOL.3 発行

×

×

- 「男山地域のまち再生—八幡市の生き残り戦略レポート」「八幡未来計画」ほか企画協力
- 各議会ごとに市議会 REPORT「こんにちは！ 上谷耕造です」を定期発行。会派として「みどりの薫風」を年2回発行、市民フォーラムなども開催。
- 議員報酬のお手盛りアップに反対し、約100万円超の受け取りを拒否、今も法務省に供託を続けている。

- 現住所 八幡市男山松里 12-20
- 電話 (自宅) 075-983-3091
- 事務所 八幡市男山松里 12-20 (電話) 075-983-3664

×

×

★八幡まるごと館(毎週火曜日は休館)

- ***地元野菜の直売**~地元農家による地域の新鮮野菜、花木、果物、ジャム、漬物の直売(低農薬・安価・朝採り・生産者の顔が見える—が基本)
- ***地域のおしゃべりサロン**~地域の人や道行く人たちが自由に立ち寄り、気ままに世間話などができる“地域の茶の間”
- ***現在のおもな催し**

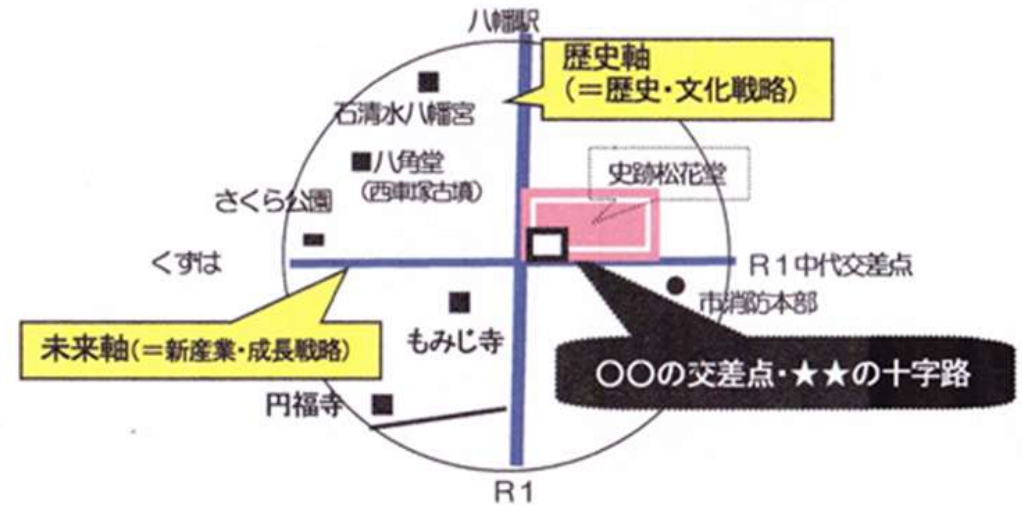
- めしませ着物**~“着物美人”をめざして、毎月1回不定期で開催。時間は、午前9時から12時まで。参加費一人100円。
- パソコン教室**~他人と同一歩調で勉強する必要がなく、自分のテーマに沿って自分の速度で勉強できるのが特徴。「やる気」を大切にする教室です。
- クリスマスリースづくり**
- クリスマスコンサート**
- 正月用しめ飾りづくり**~講師による丁寧な指導あり。材料その他一切は主催者側で準備します。
- 1月、新春もちつき大会**

×

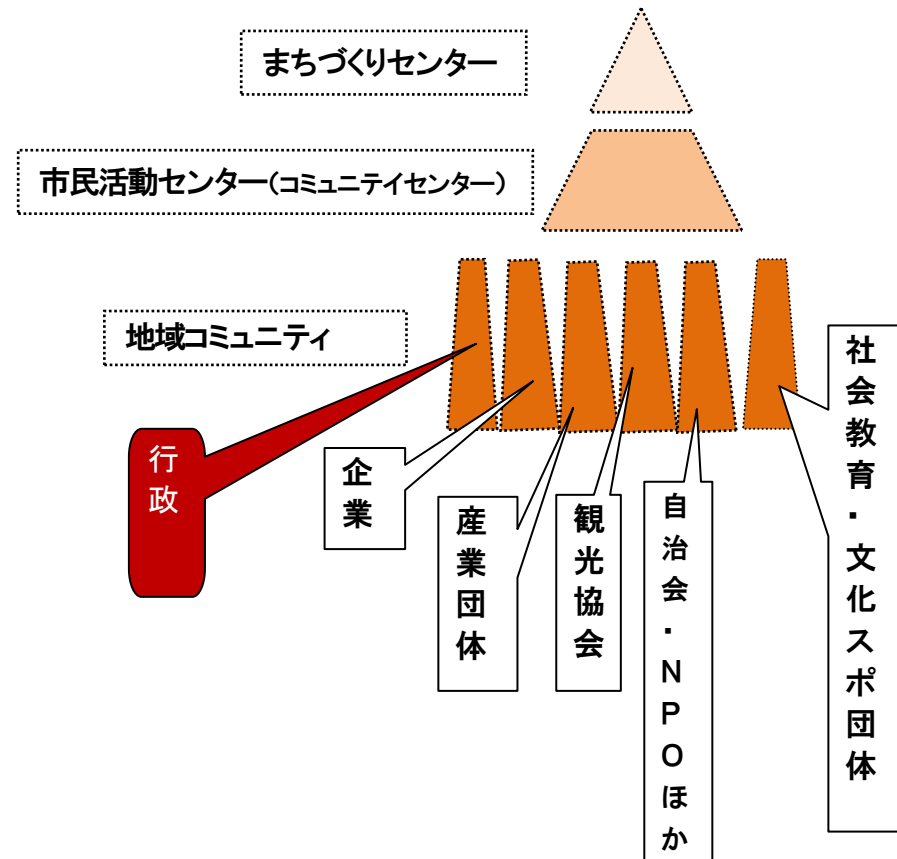
×

- 春・秋年2回のまるごと市**~各種フリーマーケット、大規模な野菜市、多彩な手作り製品、飲食物の販売などでにぎわいます。

★歴史と未来の交差点



<参考「市民協働のまち」>



★歴史と未来の交差点(1)

南北軸は、京阪八幡市駅から史跡松花堂を経て円福寺に通じる旧東高野街道。この軸は、石清水八幡宮・飛行神社から始まり放生川、松花堂とその沿線を経由する神社仏閣の多い歴史・文化の道。

東西軸は京阪樟葉駅から流れ橋に通じる未来軸。この軸は、国道1号線やインタージャンクション、東部工業団地などに通じる八幡市の新産業・成長戦略を探る道。

この南北軸が交差するのが、松花堂一角の交差点だ。たとえば「●〇交差点」「温故知新の十字路口」などと積極的な新しいコンセプトを考えて、もっと有効活用すべきだ。仮にそのキーワードを「世界遺産」登録とすると…。

★歴史と未来の交差点(2)

■「世界遺産登録運動」＝「神仏習合と緑の文化」を具体的に象徴するシンボルを探せ！

今後、世界遺産登録運動のキーワードとなるのが「神仏習合」と「緑の文化」だ。このテーマは、21世紀日本の世界戦略にも通じる普遍性を持っている。

とすると、これにふさわしいシンボリックなモニュメントや現代アートを活用したカウンターカルチャーなどの展示や催しを試みてはどうか。

たとえば、私が今思いつくことは…。

- *“エコの象徴”～“緑の小山”(森)をつくる(「ミニ男山?の築山」)。
- *散策者の休憩スポット～簡易な“喫茶室”と休憩室を設ける(安価・セルフサービス)。
- *知足精神の時代に対応～善法律寺で見つかった「吾唯知足」の手水鉢を配置。
- *現代アートを使ったモニュメントの展示。
松花堂、八角堂、さくら公園一帯を活用して、彫刻や音楽などの催しを1週間くらい続けて開催。
- *神仏習合の象徴～新しいヴァリエーションの創出(たとえば、男山にある「聖徳太子像」の移築)。
- *“平和の象徴”～アンネのバラの活用ほか。

●冊子名 「市民が元気なまちに！」VOL.4
～「地域から… 市民協働のまちへ！」

●発行者 八幡市議会議員上谷耕造

●発行日 2012年12月

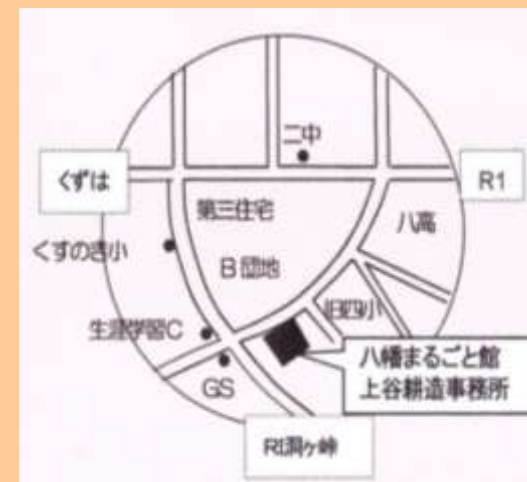
●連絡先 上谷耕造事務所

(住所) 八幡市男山松里 12-20

(TEL&FAX) 075-983-3664

●E-mail/uetanikozo@zeus.eonet.ne.jp

●URL/<http://www.uetanikozo.com/local>



* 上谷耕造ホームページはネットで
<http://marugotokan.net/>を検索して八幡まるごとミュージアムをクリックして下さい。